

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671900284		
法人名	医療法人 内田会		
事業所名	グループホーム「虹」		
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1446番地2		
自己評価作成日	平成23年7月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年9月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所は、“利用者が安心して生活できるホームにすること”や“地域との関わりや付き合いを大切にすること”、“職員は利用者や家族との交流を大切に、心の通ったホームづくりに努めること”の3項目を理念に掲げている。同一法人の事業所に、医療機関や老人保健施設があり、利用者の希望や必要に応じてサービスを受けることができる。また、急変や事故等に対し迅速で適切な対応がとれる体制を構築している。地域との付き合いを重視し、事業所の行事等にボランティアを積極的に受け入れている。また、開設当初より、定期的に近隣の小学校との交流を図っており、学校や地域の行事にも積極的に参加している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近隣に母体法人の医療機関や関連事業所があり、利用者の希望や状況変化に応じて、サービスの選択ができるようになっている。利用者一人ひとりが食事の準備や後片づけ等の役割を自然に担っており、職員は一人ひとりにあった力を活かせる支援に取り組んでいる。定期的な小学生との交流や中学生の福祉体験学習の受け入れ、納涼祭での家族会との交流、地域の方のボランティアの受け入れ、地域行事への参加、自主防災組織との協同によるハザードマップづくり等に積極的に取り組み、事業所の取り組みが地域のなかで理解を得られるよう取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に、“利用者が安心して生活できるホームにします”“地域との関わりや付き合いを大切にします”“職員は利用者や家族との交流を大切にし、心の通ったホームづくりに努めています”を掲げている。	利用者が、地域のなかで安心して生活できるよう地域との関わりや家族との交流を大切に取組むなどし、心の通った事業所づくりに努めている。ミーティング時に理念について話しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事等に地元のボランティアを積極的に受け入れている。また、お祭りや一斉清掃等にも積極的に参加している。	日ごろから、事業所の周辺を散歩したり、買い物に出かけたりしている。出会った人達と挨拶や会話を楽しんでいる。地域の一斉清掃やお祭りに参加したり、地元から多数のボランティアが来訪するなど、事業所自身が地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所便り等を通じて自分たちの経験を公開したり、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を提供するように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催している。利用者や家族の意見・評価等について話し合い、事業所のサービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。参加者との双方向的な話し合いを行っている。家族会の参加もあり、出された意見や提案を日ごろのケアに活かすことでサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じ協力関係を築いている。	市担当者や地域包括支援センターと密に協力関係を構築している。管理者は必要に応じて市町村へ出向き、事業所の考え方や取り組みを伝えるなどして連携の強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束が必要な場合に備えてマニュアルを作成している。	身体拘束に関する勉強会を開催したり、マニュアルを作成したりして、職員間の共通認識を図っている。心身状況の変化等により予測されるリスクについて話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学習する機会を十分に設けている。業務において、つねに注意を払い防止に努めている。また、職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			あい	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用した経験があり、その際、同制度について学習した。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書や口頭での説明を十分に行って疑問等が残らないよう心がけている。今までにトラブルなどはない。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見に真剣に耳を傾けている。直接、意見を聞くほか、意見箱の設置を行っており、出された意見等をサービスの質の向上に努めている。	利用者や家族等と何でも話しあえる関係づくりの構築に努めている。運営推進会議に家族の出席があり、出された意見や要望等は職員会議で話しあって運営に反映している。また、毎月、利用者の日ごろの様子を家族に報告しており、家族の意見等も踏まえてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティング等を通じて職員の意見を聞く機会を設けている。出された意見等を運営に活かしている。	日ごろの話しあいや定期的なミーティングの際に、職員から詳細な意見や提案を聞いており、出された意見等を運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員配置や勤務評価等を適切に行っている。また、職員の意見に耳を傾け、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修を受講する機会を多く設けている。また、職場内では医師による研修会を行っており、職員は真剣に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修会等の機会に同業者と交流を図る機会が多い。情報交換に努めており、サービスの質の向上を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			あい	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行っている。また、入居後もコミュニケーションの機会を増やすように心がけている。入居者が慣れない環境に適應できるよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に文書や口頭説明により十分な説明を行っている。また、出された意見を運営に活かせるよう取り組み、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一法人の医院や老人保健施設と連携し、相談に適切に応じられるよう努めている。また、必要に応じてその他の事業所の紹介も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や生活歴等に配慮し興味を持って接している。その際、意外な発見や学ぶことも多い。また、利用者の能力を引き出すよう努めており、意欲をもって生活できるよう取り組んでいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力無くしては、事業所の円滑な運営は難しいと捉えている。家族と協力しあって利用者を支えられるよう良好な関係の構築に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が持ち込んだ馴染みの物を大切に扱っている。利用者には、なるべく私物を持ち込んでもらっている。	馴染みの美容院や散歩コース、神社等の場所を大切に支援している。地域に暮らす友人・知人や定期的にボランティアの来訪等もあり、継続した交流ができるよう努めている。また、利用者の使い慣れた衣服や寝具、時計、携帯電話、筆記用具等の所持品を持ち込んでもらい使用を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	つねに利用者同士の人間関係に配慮している。必要に応じ職員が仲介等を担っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退居に至った際には、転居先へ文書や口頭等で適切な連絡や説明を行うよう努めている。また、その際の相談にも積極的に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者との対話を通じて希望の把握に努めており適切に対応している。協力医療機関以外への通院も必要に応じて行っている。	日ごろの生活のなかで、利用者の行動や会話、表情等から暮らし方の希望や意向を把握するよう努めている。利用者と会話を楽しみつつ、ともに寄り添って作品をつくるなどし、本人の希望や暮らし方の把握に努めている。また、意思の把握が困難な場合には、家族や関係者から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用者一人ひとりの生活歴を正しく把握するよう努めている。把握した情報をサービスの質の向上に努めている。また、入居後も把握に努め、必要に応じて見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を正確に把握して記録したり、把握した情報に基づいて適切な対応を行うように努めている。職員間の連絡も正確に行えるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者、職員等と話しあい、出された意見を介護計画書に反映している。また、必要に応じて見直ししている。	各種会議や訪問時に家族から意見を聞いている。利用者や家族、理学療法士、職員等で話しあい、出された意見をもとに現状に応じた介護計画書を作成している。また、状況の変化によりそのつど見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの利用者の暮らしに関する個別記録を作成し、介護計画やサービスの質の向上に反映している。定期や随時に情報共有のための話しあいを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族抱える様々な課題や要望を理解しサービスに反映している。事業所のもつ多機能性を活かし、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			あい	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりが生活の安定や拡がりをもって暮らすことができるよう、地域の商店や福祉施設、警察署、消防署、文化施設等に協力を働きかけている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、利用者への支援が適切に行えるよう取り組んでいる。また、利用者の希望に応じその他の医療機関の受診を支援している。	利用者や家族の希望する医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じ、受診の付き添いや家族に同行するなどして普段の様子や変化を伝え記録している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療行為等の適切な支援に努めている。その際、介護職と看護職の連携が円滑なものとなるように取り組んでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の関係医療機関と密に連携を図っている。利用者が安心して医療の受診を得られるよう、情報交換を密に図ったうえで支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に備え、早期段階で家族や医師、職員間で話しあっている。過去の事例や経験が豊富にあり、日ごろの業務に盛り込んで支援している。	重度化した場合のあり方について、早い段階から利用者や家族、医師、職員間で話しあっている。なるべく利用者と家族の意向にそった支援ができるよう方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと、定期的に応急手当等の訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて訓練を行っている。緊急連絡網も整備している。	災害対策マニュアルや緊急連絡網を作成し、年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議の際、地域へ協力の呼びかけを行ったり、自主防災組織に加入している職員の協力によりハザードマップを作成したりして連携の強化を図っている。また、地域の消防団と避難支援に関する協定書を締結しており、災害に備えた強固な体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			あい	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーには十分な配慮を行っている。そのために必要な観察や考察を日ごろから行っている。	利用者の誇りやプライバシーについて話しあいを重ねており、職員の理解や徹底を図っている。利用者の情報収集や外部との連携の際には、責任のある取り扱いと管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけて対話している。特に利用者の話を聞くことに重点をおいて要望や希望の把握に努め、なるべくその意思を引き出すよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースに応じ支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に最大限の配慮をしている。希望する理・美容院へ出かける利用者も多い。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や硬さは本人の好みに配慮している。好き嫌いにもなるべく配慮している。また、食事の準備や後片づけも自然なかたちで手伝ってもらっている。	管理栄養士の献立をもとに、食事が楽しみなものとなるよう好みに応じている。また、昔ながらの料理の作り方や切り方等を教えてもらったりして、利用者のやる気や生きがいづくりの一環となっている。利用者は、食事の準備や後片づけ等の役割も担っており、利用者や職員の楽しみな時間となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの主食と副食の量を、分かり易く記録している。また、水分摂取量も記録し健康管理に役立てている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。その際、口腔内の様子や食べ物が残っていないかなども確認している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			あい	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや紙パンツの使用は極力減らすよう努めている。利用者の特徴に応じて、トイレ誘導やポータブルトイレを使用している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけやトイレ誘導により排泄の自立に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取に留意し、便秘の防止に努めている。必要に応じて下剤の投与も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所の都合で入浴の曜日と時間を決めている。	利用者に入浴の曜日と時間帯の説明を行って了解を得ている。しかし、利用者の希望や状況に応じて入浴できるよう柔軟に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が居室で落ち着いて過ごせるように、好みや習慣に応じて生活用品等を備えている。また、季節に応じて快適に過ごしてもらえるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の効用と副作用を書いたファイルを用意し、全職員が理解できるようにしている。また、ファイルの内容は服薬の変化に応じて更新している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や好み、習慣等を把握している。それにもとづいて役割や趣味を楽しんでもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日ごろから近隣を散歩している。また、車で遠出する機会が多くなるようにしている。	日ごろから、近隣の散歩や神社参りに出かけている。ドライブや産直市への買い物に行ったり、帰りに外食をしたりして、利用者の好評を得ている。また、週1回、家族とともに自宅へ帰ったり、連休には家族の迎えで外泊するなど、利用者の希望に応じた支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理している利用者は多く、なるべく使用する機会が多くなるよう支援している。また、金銭管理の困難な方にも、なるべく金銭を所持してもらうよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	適切に電話をの取り次ぐように留意して取り組んでいる。本人の希望に応じて、家族との会話を楽しんでもらっている。手紙についても、プライバシーに十分な配慮や尊重を行って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけに季節感を取り入れるなどの工夫を行っている。また、温度や湿度を適切に管理している。音や光についても、利用者の希望にそえるよう努めている。	廊下や食堂、居間は開放感のあるつくりとなっているため、職員は利用者を自然に見守っている。窓際には、椅子やソファを設置しており、腰をかけるとデッキに置かれた季節の花や植物を眺めることができる。ゆったりとした気分で居心地良く過ごせる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレ使用時や入浴時のプライバシーに十分に配慮し、利用者一人ひとりが安心して暮らせるよう努めている。ホールや各居室では、気のあった利用者同士が談笑している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は、本人や家族の意見を取り入れ快適に過ごしてもらえるよう配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限に尊重している。	利用者が今まで使っていたペンや化粧品、時計、家族写真、人形等を飾っている。家族と相談し、愛用品を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの生活習慣に応じて工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動を妨げないように、ホールや居室内の障害物を撤去し自立した生活を送ることができるよう支援している。また、分かり易さにも配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に、“利用者が安心して生活できるホームにします”“地域との関わりや付き合いを大切にします”“職員は利用者や家族との交流を大切にし、心の通ったホームづくりに努めています”を掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事等に地元のボランティアを積極的に受け入れている。また、お祭りや一斉清掃等にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所便り等を通じて自分たちの経験を公開したり、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を提供するように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催している。利用者や家族の意見・評価等について話し合い、事業所のサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じ協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束が必要な場合に備えてマニュアルを作成している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学習する機会を十分に設けている。業務において、つねに注意を払い防止に努めている。また、職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用した経験があり、その際、同制度について学習した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書や口頭での説明を十分に行って疑問等が残らないよう心がけている。今までにトラブルなどはない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見に真剣に耳を傾けている。直接、意見を聞くほか、意見箱の設置を行っており、出された意見等をサービスの質の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティング等を通じて職員の意見を聞く機会を設けている。出された意見等を運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員配置や勤務評価等を適切に行っている。また、職員の意見に耳を傾け、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修を受講する機会を多く設けている。また、職場内では医師による研修会を行っており、職員は真剣に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修会等の機会に同業者と交流を図る機会が多い。情報交換に努めており、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	すだち 実践状況	すだち 実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行っている。また、入居後もコミュニケーションの機会を増やすように心がけている。入居者が慣れない環境に適応できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に文書や口頭説明により十分な説明を行っている。また、出された意見を運営に活かせるよう取り組み、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一法人の医院や老人保健施設と連携し、相談に適切に応じられるよう努めている。また、必要に応じてその他の事業所の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性や生活歴等に配慮し興味を持って接している。その際、意外な発見や学ぶことも多い。また、利用者の能力を引き出すよう努めており、意欲をもって生活できるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力無くしては、事業所の円滑な運営は難しいと捉えている。家族と協力しあって利用者を支えられるよう良好な関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が持ち込んだ馴染みの物を大切に扱っている。利用者には、なるべく私物を持ち込んでもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	つねに利用者同士の人間関係に配慮している。必要に応じ職員が仲介等を担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退居に至った際には、転居先へ文書や口頭等で適切な連絡や説明を行うよう努めている。また、その際の相談にも積極的に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者との対話を通じて希望の把握に努めており適切に対応している。協力医療機関以外への通院も必要に応じて行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用者一人ひとりの生活歴を正しく把握するよう努めている。把握した情報をサービスの質の向上に努めている。また、入居後も把握に努め、必要に応じ見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を正確に把握して記録したり、把握した情報に基づいて適切な対応を行うように努めている。職員間の連絡も正確に行えるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者、職員等と話しあい、出された意見を介護計画書に反映している。また、必要に応じて見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの利用者の暮らしに関する個別記録を作成し、介護計画やサービスの質の向上に反映している。定期や随時に情報共有のための話しあいを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族抱える様々な課題や要望を理解しサービスに反映している。事業所のもつ多機能性を活かし、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりが生活の安定や拡がりをもって暮らすことができるよう、地域の商店や福祉施設、警察署、消防署、文化施設等に協力を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、利用者への支援が適切に行えるよう取り組んでいる。また、利用者の希望に応じその他の医療機関の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療行為等の適切な支援に努めている。その際、介護職と看護職の連携が円滑なものとなるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の関係医療機関と密に連携を図っている。利用者が安心して医療の受診を得られるよう、情報交換を密に図ったうえで支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に備え、早期段階で家族や医師、職員間で話しあっている。過去の事例や経験が豊富にあり、日ごろの業務に盛り込んで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと、定期的に応急手当等の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて訓練を行っている。緊急連絡網も整備している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーには十分な配慮を行っている。そのために必要な観察や考察を日ごろから行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけて対話している。特に利用者の話を聞くことに重点をおいて要望や希望の把握に努め、なるべくその意思を引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースに応じ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に最大限の配慮をしている。希望する理・美容院へ出かける利用者も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や硬さは本人の好みに配慮している。好き嫌いにもなるべく配慮している。また、食事の準備や後片づけも自然なかたちで手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの主食と副食の量を、分かり易く記録している。また、水分摂取量も記録し健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。その際、口腔内の様子や食べ物が残っていないかなども確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	すだち 実践状況	すだち 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや紙パンツの使用は極力減らすよう努めている。利用者の特徴に応じて、トイレ誘導やポータブルトイレを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取に留意し、便秘の防止に努めている。必要に応じて下剤の投与も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所の都合で入浴の曜日と時間を決めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が居室で落ち着いて過ごせるように、好みや習慣に応じて生活用品等を備えている。また、季節に応じて快適に過ごしてもらえるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の効用と副作用を書いたファイルを用意し、全職員が理解できるようにしている。また、ファイルの内容は服薬の変化に応じて更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や好み、習慣等を把握している。それにもとづいて役割や趣味を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日ごろから近隣を散歩している。また、車で遠出する機会が多くなるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	すだち 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理している利用者は多く、なるべく使用する機会が多くなるよう支援している。また、金銭管理の困難な方にも、なるべく金銭を所持してもらうよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	適切に電話をの取り次ぐように留意して取り組んでいる。本人の希望に応じて、家族との会話を楽しんでもらっている。手紙についても、プライバシーに十分な配慮や尊重を行って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけに季節感を取り入れるなどの工夫を行っている。また、温度や湿度を適切に管理している。音や光についても、利用者の希望にそえるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレ使用時や入浴時のプライバシーに十分に配慮し、利用者一人ひとりが安心して暮らせるよう努めている。ホールや各居室では、気のあった利用者同士が談笑している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は、本人や家族の意見を取り入れ快適に過ごしてもらえるよう配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限に尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動を妨げないように、ホールや居室内の障害物を撤去し自立した生活を送ることができるよう支援している。また、分かり易さにも配慮している。		